

## 第9回豊橋市立特別支援学校整備連絡協議会会議録要旨

- 1 **開催日時** 平成25年7月30日（火）午後1時30分～午後2時30分
- 2 **開催場所** 豊橋市役所 東館12階 東121会議室
- 3 **出席者 委員** 吉見広志、黒谷厚志（代理出席：吉田伸一 愛知県教育委員会特別支援教育課主幹）、恩田やす恵、小笠原幸忠、中村文紀、白井英俊（代理出席：鈴木三恵子 田原市健康福祉部地域福祉課長）、花井君枝、黒柳哲禎、村田勇一郎、荒木登喜子、平井敏久、増田隆雄、戸田守彦、安形佳典、小林雅代  
※敬称略
- 事務局** 加藤喜康（教育政策課長）、田中正己（教育政策課主幹）、青木秀水（建築課長）、加藤宣隆（建築課主査）、浅倉淳志（教育政策課主査）
- 欠席者** 山寄博充、小林一博 ※敬称略
- 4 **議 事**  
（進行：事務局 教育政策課長）

### ・豊橋市立特別支援学校整備連絡協議会委員について

事務局より「平成25年度豊橋市立特別支援学校整備連絡協議会委員名簿」について説明

### ・特別支援学校整備スケジュールについて

建築課長より資料「特別支援学校整備事業スケジュール」について説明

### ・本年度の検討事項（課題）について

事務局より資料「市立特別支援学校設立に係る本年度の検討事項（課題）」について説明

<委員>

校名について、県立の養護学校では開校前のどのくらいの時期で設置条例を定めているのでしょうか。

<教育政策課長>

おおむね2年前に定めています。

<委員>

学校名については、保護者の方々を含め関心が高いと思います。平成26年4月から現在の「県立豊橋養護学校」が「県立豊橋特別支援学校」と名前が変わる予定です。県立と区別がつくよう、また、豊橋らしい名前が良いと思う。

<教育政策課長>

最近の県立の養護学校の名称も「ひいらぎ」「みあい」「いなざわ」等地名やひらがなを使っ

たりしている、本市も、和らかく、親しみ易い校名を考えていきたい。

#### ・開校準備に係る本年度以降のスケジュールについて

事務局より資料「豊橋市立特別支援学校の開設準備スケジュール」について説明

<委員>

大学と連携した「介護体験の受入」について、県立の養護学校では県内全ての大学から受け入れを行っている状況です。豊橋市立特別支援学校へも多くの希望が寄せられると思いますので、愛知大学だけではなく、幅広く受け入れをした方が良いと思います。

<委員>

「地域とともにつくる教育活動」について、どのような仕組みや組織を作っていく予定なのでしょう。

<教育政策課長>

まだ具体的な動きはしていませんが、受け皿としましては老人クラブ等が考えられます。

いずれにしましても、実施に向けては地元の皆様と時間をかけて組織づくりを進めていく必要があると考えています。

<委員>

渥美線を利用する児童生徒について、植田駅で降りて学校まで歩いて通学することとなると、近隣の中学の自転車通学の生徒や、特に最近では23号バイパスの影響で、周辺道路の自動車も増加しており、非常に危険だと思われるが、安全対策についてはどのように考えているのか。

<教育政策課長>

通学を含め児童生徒の安全は第一に考えなければならないと思っている。

本校で渥美線を利用して通学する児童生徒への対応として、例えば渥美線の駅（例えば大清水駅）をスクールバスの経路にする事など、対応を考えていきたい。

#### ・開校に向けての説明会日程等について

事務局より資料「豊橋市立特別支援学校開校に向けての説明会日程」について説明

<委員>

一般向けの特別支援学校の説明会が、12月から1月の間になっているが、出来るだけ早く保護者には説明した方が良いと思います。

<委員>

福祉施設等関係者への説明会を実施する予定は有るのでしょうか。

<教育政策課長>

対象となる豊川養護学校の保護者の皆様への説明会は、今年8月に実施予定であります。

一般向けの説明会についても、出来るだけ早い時期に実施するようにしたいと思います。

また、福祉施設等関係者への説明会も実施してまいります。

<委員>

教員向けの説明会ですが、進路指導主事や特別支援教育部会などへの説明会を実施してもら

っていますが、それぞれ、異動などで担当も替っていくことから、教務主任や校務主任への説明会も実施してもらいたい。

<教育政策課長>

必要であれば、色々な場で説明をさせていただきます。

## ・その他について

<委員>

地元としては、この特別支援学校については、平成23年5月15日に地方紙で取り上げられた事が発端で、建設に向けて市と様々な調整を行ってきました。

その中で、「なぜ市が建設をしなければならないのか」、「県が実施すべき事業では」との声も上がった。

県は、補助金についても「出来る限りの努力はする」と言っているが、どのようにバックアップをしていくつもりなののでしょうか。

また、県道伊古部・南栄線の拡幅について今年の9月28日に県へ要望に行きましたが、地権者の問題などで、1年前に現場へ行ってから動きが止まっている状況のようです。

地元からの要望も色々出しているが、県のバックアップの状況は見えて来ないが、どのようになっているのでしょうか。

<委員>

県の豊橋市立特別支援学校への補助金については、今まさしく予算要求している状況なので、これ以上の事は申し上げられない。

県道の件につきましては、関係部局に確認してみます。

<教育政策課長>

県からの補助については、豊橋市としても今年の要望が重要だと認識しています。

今年度も10月に東三河の市町村長と要望に行く予定です。

また、県道の関係ですが、県道伊古部・南栄線が東三河環状線と交わる交差点の拡幅については、県の特別支援教育課の力添えもあり、実現に向けて目途が立ちつつある状況もあり、協力をいただいております。